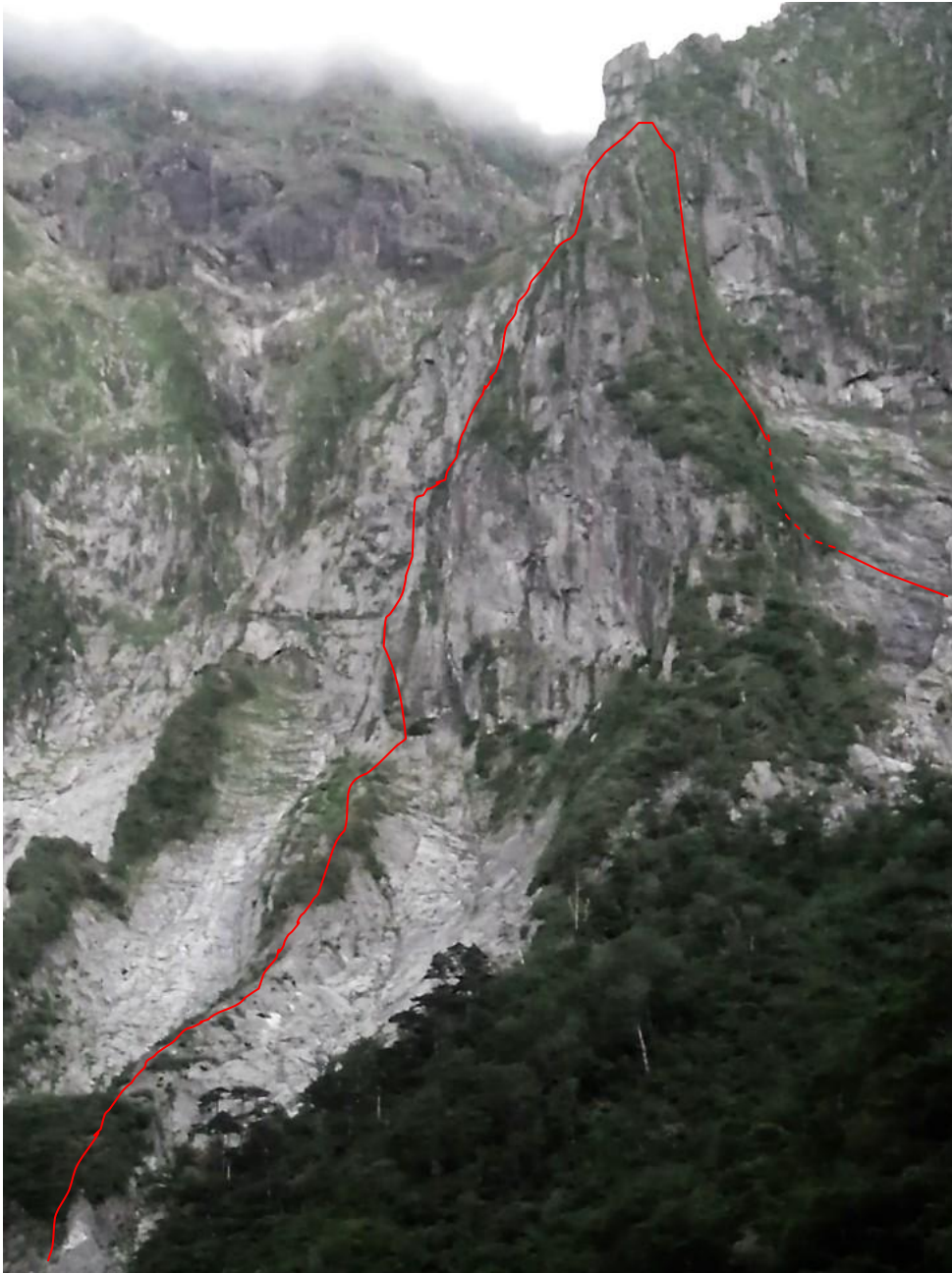


一の倉沢衝立岩中央稜



一の倉沢出合より衝立岩を臨む 赤線登攀ルート

【日時・天候・ランク】

2016 年 6 月 26 日～6 月 27 日 晴にわか雨 晴れ D-D-10（みろく山の会）
参加者 4 名（Y、K、A、H）

【コースタイム】

1 日目：JR 中山駅 14：00≒17：20 ベースプラザ手前 P…17：30 登山指導センター（泊）
2 日目：泊地 3：45…4：30 一の倉沢出合 4：45…5：35 テールリッジ 5：40
…6：17 中央稜取付き 6：35…9：50 終了点 10：50…11：00 北陵懸垂
下降点 11：05…北陵（懸垂下降 7 回）…衝立前沢（懸垂下降 1 回）…15：
00 本谷出合…16：10 一の倉沢出合 16：25…17：07 泊地

【山行記】

24、25 日会山行 7 人を予定したが、天候が悪く中止し、26、27 日の晴れ間を狙い個人山行として 4 人で実施した。27 日（月）クライマーは少なく、我々の 4 人が先行して出発して、後は南稜の 2 人、4 人パーティのみであった。

《アプローチ》

今年は雪溪の雪が少なく、飛び石伝いに沢を渡りながら、途中右岸を高巻、ヒョングリの滝でも高巻きフィックスロープを使用しクライムダウンしてテールリッジ末端に取り付いた。テールリッジには新しいロープが張られて登りやすくなっていた。

《登攀》

中央稜取付きから終了点まで 10 ピッチで登攀した。P3 のトラバースでロープが下の岩に引っかかり、ロープを引き上げるのが大変だった。核心の 4P のチームは前回ザックが邪魔をして登りにくかったので、左側を登ったら比較的楽に登れた。終了点手前の支点からは、2mほど下がった右側に階段状のルートがあるのがわかったが、前回と同様直登して右側をクライムダウンして登り返して終了点に到達した。終了点は 4、5 人がくつろげるスペースがあり、ゆっくり昼飯とした。

《下降》

北稜を 7 回の懸垂下降でピナクル手前まで下降した。途中の藪の中の懸垂では斜め左下方向へ意識しながら 25m でピッチをきりながら降りると正面壁への下降もなく、ロープの回収もスムーズになる。衝立前沢を下降して、本谷の手前で左側につけられたバンド～トラバース道を辿った。バンドまでは、支点がありロープを出して登った。トラバース道は、はっきりした踏み跡があるが、一步一步木や草を掴みながら慎重に下降した。

《終了して》

衝立岩中央稜はアプローチと下降の方が、ルートの登攀より難しく感じて緊張を強いられた。北稜の下降では、参考文献より懸垂回数を多くして 40m×3、25m×3、50m×2 にしたほうが良いと思った。途中空中懸垂の手前の懸垂では 50m にして懸垂したところ斜めに引かれるためロープが回収できなくなったので 25m で懸垂したほうが良い。

また、このルートはクライミングの総合力が試されるので山行の人数も 4～5 人が限度ではないかと思った。

《参考文献》

新版 日本の岩場上 菊池敏之編著 その他ブログ



テールリッジ取付きへクライムダウン



クライムダウン地点から衝立岩を臨む



テールリッジ登攀



1P 終了点から南稜方面を臨む 中央に南稜テラス



1 ピッチ終了点から見る烏帽子岩



5 ピッチ目終了点から衝立の頭



最終ピッチのクライムダウン



衝立岩終了点にて



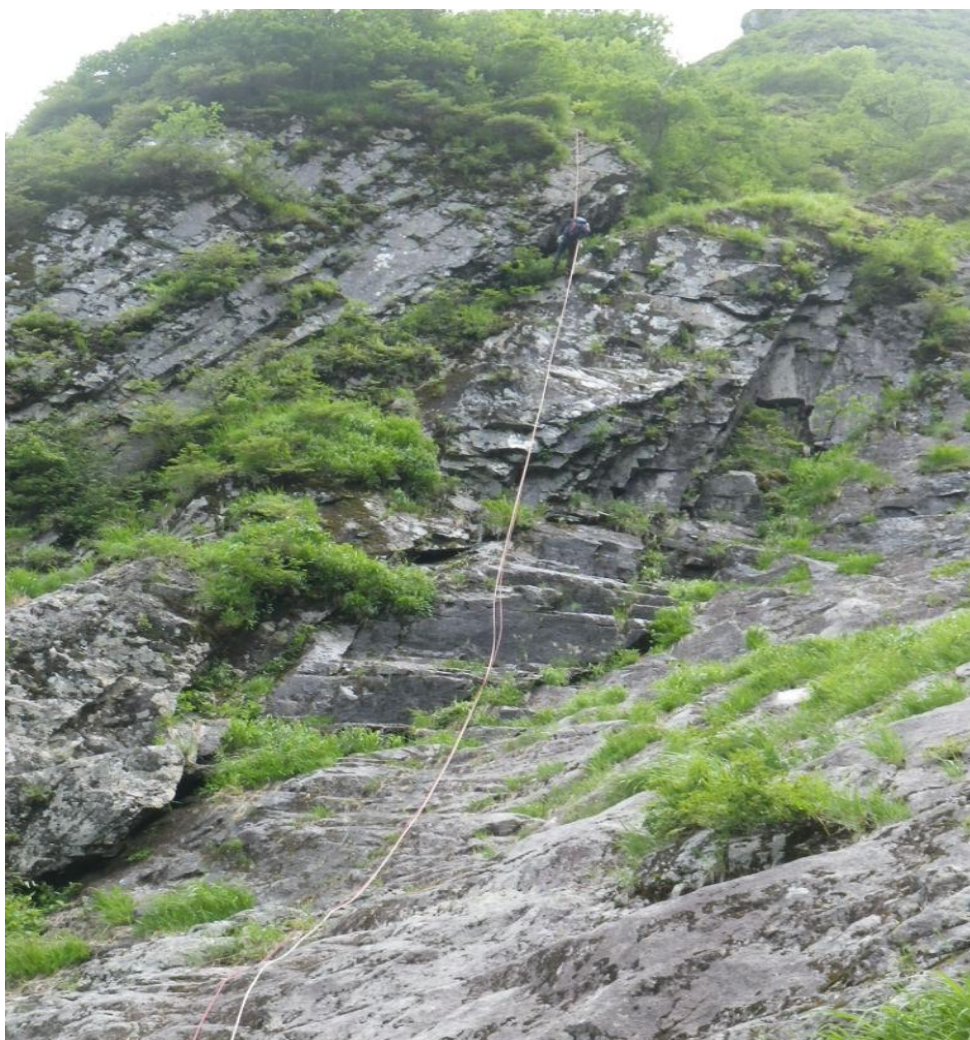
終了点から衝立の頭の稜線を臨む



北陵の懸垂下降点にて



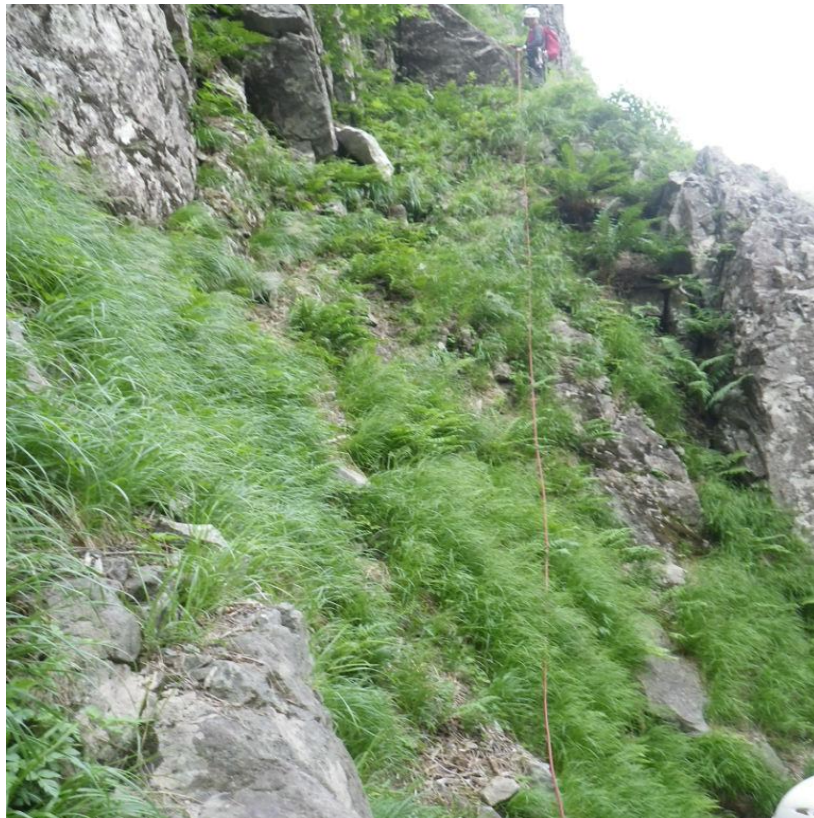
懸垂下降の用意



藪をぬけてからの空中懸垂



ピナクル脇より懸垂終了地点を撮る



衝立前沢からバンドへ 支点がありロープを出す



左岸トラバース中 後ろを振り返る



一の倉沢出合いに到着